

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。

そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



除幕式の様子(遠景)



除幕式の様子



現在の矢頭軍司翁像

第12回 矢頭軍司翁像

初代の吉富町長

吉富町役場を訪れたことのある方は、入口に向かって右側に設置されている「矢頭軍司翁」という像をご覧ください。矢頭軍司氏は、32歳であった明治34年(1901年)4月から町制が施行され吉富町が誕生するまでの間(昭和17年(1942年)5月19日)、東吉富村の第4、7、9代村長を務めました。吉富町となった際は、初代町長となりましたが、在職2年半後に病気のため、惜しまれつつ辞任することとなりました。34年有余の長い間、郷土の発展向上のために尽くされたのでした。

武田化成(株)を誘致

村長時代から山国川、矢方池など、かんがい、治水事業等数々の功績を残した矢頭軍司氏でしたが、昭和17年5月18日に生産を開始した武田化成(株)の

吉富工場、後の吉富製薬(株)(現在の田辺三菱製薬グループ)を当地に誘致したのも同氏でした。吉富町の町制施行の前日の生産開始であり、工場の竣工式と町制祝賀も同時に催され、町内は祝賀気分にあふれたとのこと。1日違いで誕生した吉富町と製薬工場は現在もともに発展を続けています。

矢頭軍司翁像の建立

昭和23年(1948年)3月2日、80歳で惜しまれつつ永眠した矢頭軍司氏の功績を称え、昭和29年(1954年)11月、矢頭軍司翁像が建立されました。町に残されている盛大な除幕式式典の写真からも町民に慕われた人柄が伝わってきます。初代町長はいつも役場前から吉富町の発展を見守っているのです。